



ビワ「なつたより」は、果実が大きく食味に優れた品種ですが、近年は温暖化の影響で開花期が前進化し、早花果が多くなることで寒害を受けやすく、生産が不安定になっています。

そこで、着房枝を切り返して、開花期の生育ステージを適正にする管理方法について検討しました。

その結果、4月下旬に摘房する着房枝の本葉2、3枚より上段を切り返すことで、花房進度（開花の生育ステージ）は収穫時に果房だけを切り返す場合と比べ、1・5段階程度、遅くなりました。開花期の前進化を抑制できることが明らかとなりま

した。
また、その場合の着房率は70%以上を確保できるとともに、結果枝の長さが50〜60%短くな

ビワ着房枝の切り返し

開花の前進化抑制に 4月下旬実施が有効

着房枝の切り返しが花房進度と着房率、結果枝長に及ぼす影響

処理方法	切り返し時期 (月日)	花房進度	着房率 (%)	結果枝長 (cm)
果房を含む本葉2、3枚より上段を切り返し	4/5	2.7	86.7	15.5
	4/28	2.3	73.3	13.4
	5/27	1.0	33.3	6.7
	6/17	1.0	6.7	7.5
収穫時に果房だけ切り返し（対照）	5/20	3.5	100.0	25.1

※全項目とも2019年10月30日に調査
※花房進度とは花の生育ステージを9段階に区分した指標で、数値が大きいほどステージが早いことを示す

り、樹冠をコンパクトにするのができます。

なお、花芽分化を促進させるためには、7月末までに誘引し

て樹体への日当たりを良好にし、充実した結果枝に育成する必要があります。

（県農林技術開発センター果樹・茶研究部門ビワ・落葉果樹研究室専門研究員 古賀敬一）